

●海況情報

- 6月27日、大磯二宮漁協の湘南定置網で、600 kgのアカカマスの漁がありました。久々のまとまった漁獲に、しばらく続いて欲しいと漁業者は話していました。

●浜の話題

- 6月15日、横浜市中央卸売市場において横浜丸魚株式会社による「キャベツウニのお披露目会」が行われました。これは、横須賀市大楠漁協が県立海洋科学高校とともにキャベツを餌として試験養殖を行っていたムラサキウニを試食しよう、というイベントで、市場関係者のほか多くの方が来場しました。県水産技術センター担当者による講演と海洋科学高校から研究発表がありました。ウニを試食した多くの来場者から「クセが少なく甘みがあっておいしい」との評価を得ていました。



試食に供されたムラサキウニ

- 6月17日、鎌倉漁協漁業研究会は、ハマグリ分布調査を坂ノ下海岸で実施しました。当日は、特別採捕許可を取得した同研究会のメンバー5名が、鋤簾を用いて34~85 mm（平均61 mm）のチョウセンハマグリを55個(4.5 kg)採捕しました。調査に同行した二枚貝の専門家である生命の星地球博物館の学芸員に採捕海域の砂を確認していただいたところ、チョウセンハマグリの子息に適しているとのコメントがありました。漁業者は、今後の増殖に向けて期待を膨らませております。



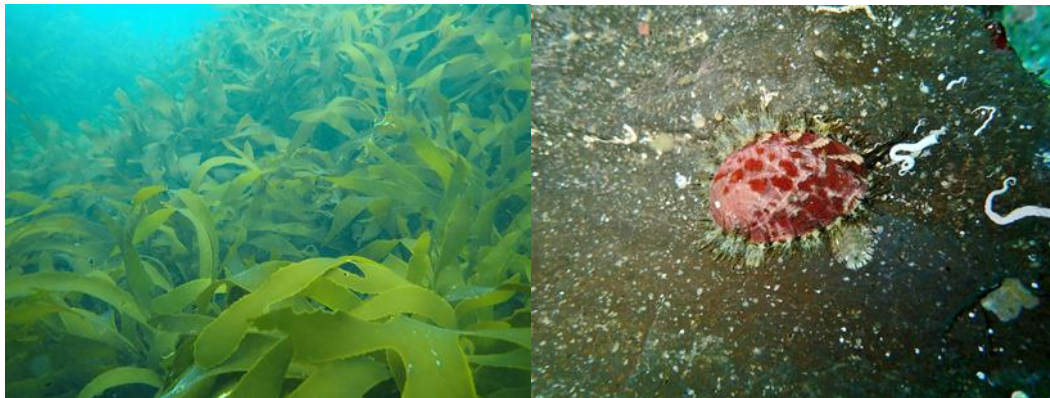
調査の様子と採捕されたハマグリ

- 6月17日、小田原市漁協遊漁部会は活動の一環として、小田原沖の3地点に簡易浮魚礁を設置しました。この魚礁設置事業は、回遊性魚類の唼集を図り、新しい釣り漁場の造成を行うことを目的として、毎年行われています。今年も好漁場が形成されることが期待されます。



浮魚礁を作成する遊漁部会員

- 6月18日、県水産技術センターは中央水産研究所と共同で、城ヶ島地先の禁漁区でアワビ類稚貝の発生状況を調査しました。数名のダイバーが潜水調査を行ったところ、調査地点の藻場ではカジメが多く繁茂しており、トコブシとアワビ類の稚貝を発見され再生産が行われていることを確認しました。城ヶ島周辺のアワビ類の漁獲状況は回復傾向にあります。今後も調査研究を継続し、アワビ資源や藻場環境の実態把握に努めてまいります。



カジメが繁茂する藻場とトコブシ稚貝

- 6月20日、小田原市漁協はヒラメ種苗の放流を行いました。小田原市漁協刺網部会、(公財)相模湾水産振興事業団及び(公財)神奈川県栽培漁業協会、刺網部会合同と合同で合計45,000尾のヒラメを小田原地先に放流しました。



ヒラメ種苗の放流準備

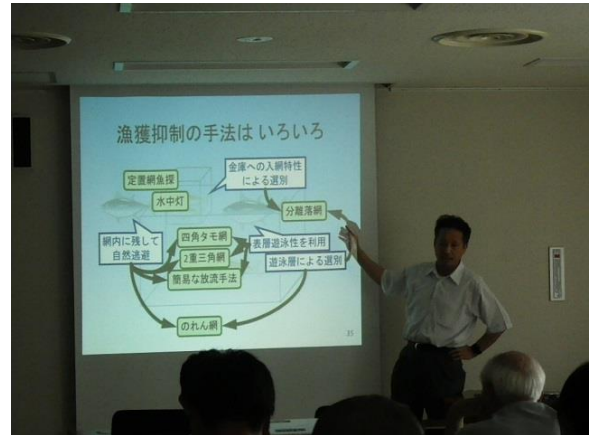


ヒラメ種苗の放流

○ 6月21日、令和元年度定置漁業研究会総会が開催されました。今年は2年に1度の役員改選の年度となり、湘南定置・加藤孝氏が会長を退任し、岩漁場の古屋勝氏が新会長に就任しました。また副会長以下、計5名の新役員が就任しました。総会では平成30年度事業報告と、令和元年度事業実施案が承認されました。また、問題となっている定置網のクロマグロの漁獲規制に関して、東京海洋大学・秋山清二准教授から「定置網でのクロマグロ漁獲抑制対策の基礎技術の開発状況」、水産工学研究所・越智センター長から「定置網でのクロマグロ漁獲抑制対策の実証化の取組」と題する二つの講演が行われ、クロマグロの漁獲抑制研究の進捗状況などの貴重な情報を得ることができました。



定置研究会の新役員就任



クロマグロ漁獲抑制対策の講演

○ 6月21日・28日、小田原市漁協青年部は、ムラサキウニ蓄養事業の取り組みについて、TBS、JA かながわ西湘の取材を受けました。7月上旬に出荷を予定しており、県内初の出荷を目指して取り組んでいる様子が21日のTBS・Nスタで放映されました。JA かながわ西湘では地元産のミカンの皮を餌として使っていることをPRしていきたいとのことでした。



○ 6月22日、神奈川県と千葉県的小型機船底びき網漁業者が千葉県君津市内で、東京湾小型機船底びき網漁業者協議会を開催しました。禁漁期間、禁漁区について取り決めたほか、マコガレイとトラフグについて資源状況と資源管理の情報交換を行いました。神奈川県水産技術センターからは、葛西臨海公園の採集調査の結果をもとに、今秋のトラフグ当歳魚(200~300g)の漁獲量は、例年より多かった昨秋をさらに上回る可能性が高いと情報提供するとともに、小型魚保護による資源管理を提案しました。どのくらいのサイズを保護対象とするか今後協議を続けることとなりました。

○ 6月25日、(公財)相模湾水産振興事業団が、腰越地先にヒラメ種苗2万尾(全長6~8cm)、腰越漁協が同地先にメバル1000尾を放流しました。当日は同漁協の計らいで種苗放流の体験イベントが併せて行われ、腰越小学校の5年生約80名が、(公財)神奈川県栽培漁業協会の鈴木事務局長から放流するヒラメについて説明を受けた後、遊漁船で放流体験をしました。

○ 6月25日、鎌倉漁協漁業研究会の総会が開催されました。当日は、2020年東京オリンピックにおけるセーリング競技の説明会も併せて行われ、大会組織委員会と県セーリング課から、協議の内容及び安全対策等についての説明がありました。

- 6 月下旬、横須賀市の長井と大楠でトラフグ種苗放流がありました。24 日に県水産技術センター栽培推進部が井尻で 16,200 尾(36 mm)、25 日に（一財）横須賀市西部水産振興事業団が長井で 5,000 尾、大楠で 5,000 尾、合わせて 1 万尾（60 mm）放流しました。大楠での放流分の内 500 尾は、地元の荻野小学校 4 年生 25 名が（公財）神奈川県栽培漁業協会の今井専務理事からトラフグの成長等について説明を受けた後、齊田浜で放流しました。
- 小坪漁協観光遊漁船部会は逗子市観光協会とタイアップして今年初の試みとして、8 月 10 日に「観光遊漁船クルーズ」を実施します。同部会所属遊漁船のより、江の島や葉山のコースを遊覧する企画で、同観光協会が参加者を募っております。詳細は同観光協会ホームページをご覧ください。

逗子市観光協会「観光遊漁船クルーズ」案内ページ

http://www.zushitabi.jp/images/kotsubo_cruise.pdf